

美術展

## 織り重なる層

インドと日本の現代アーティストによる共同美術展

高山 博子

×

ヴェンカット・ガッダム

アイデンティティは、決して固定されたものではありません。

私たちは、数え切れないほどの物語、矛盾、夢、そして可能性によって形づくられ、時とともに変わり続けています。



作品紹介



光明  
キャンバスに油  
162.2 x 130.3



昇華  
キャンバスに油  
194.0 x 162.0



光明  
キャンバスに油  
194.0 x 162.0



灯明  
キャンバスに油  
194.0 x 162.0

高山 博子



日印文化交流

2026年8月30日（日）

午前10時～午後5時

広島市留学生会館  
〒732-0806 広島市南区西荒  
神町1番1号

広島市

皆様のご来場を心よりお待ちしております。

インドと日本の二人のアーティストによる共同ライブペインティングを通して、二つの文化が会い、つながり、ともに創造する特別なひとときを、ぜひご体験ください。

ヴェンカット・ガッダム

インドの現代アーティスト

ヴェンカット・ガッダムは、アイデンティティ、記憶、そして私たちの内面に存在する多様な自己をテーマに制作する、分野横断型のアーティストです。絵画とファッションデザインを行き来しながら、個人と社会の物語を織り交ぜた作品を生み出しています。

表情豊かな女性の肖像、幾層にも重なる象徴表現、鮮やかな色彩を通して、現代インドにおける女性性、神話、憧れ、そしてしなやかな強さを探求しています。個人的な経験と文化的記憶を重ね合わせ、語られることの少ない感情や物語を描き出します。

伝統と現代の間に立つ彼の作品は、さまざまな表情や物語、そして静寂の中に、鑑賞者自身の一部を見いだすよう静かに誘います。

高山 博子

日本の現代アーティスト

高山博子は画家であり、広島日印協会副会長、日本美術家連盟会員、インドのタゴール大学客員教授を務めた。

23歳で初めてインドを訪れて以来、その精神的な魅力と豊かな文化に深く惹かれ、インドの文化や女性をテーマとした数多くの作品を制作してきました。

彼女の作品は、日本とインドの精神的なつながりを映し出し、美しさ、伝統、そして人間の心の温かさを表現しています。

2024年G7サミット広島にてインド政府から招待を受け、ナレンドラ・モディ首相に油絵『蓮華手菩薩』（れんげしゅぼさつ）を贈呈した。

2026年インド大使館に100号 華蓮 を寄贈する。

作品紹介



ああ、スニタ。私の境遇が分かりますか？  
キャンバスにアクリル  
91.44 x 121.92



ヘムラタは我が道を行く  
キャンバスにアクリル  
91.44 x 121.92



プラティマ、プラグを抜く  
キャンバスにアクリル  
91.44 x 121.92



カティヤイニ・コネクト  
キャンバスにアクリル  
91.44 x 121.92

ヴェンカット・ガッダム